一斉清掃の日・六月八日

私は高齢者教室の学級生

おじいさん おばあさん あなたもどうぞ

『生まれてはじめてこんな会に来て勉強しました。まっこと聞いたらおもしろうございます』

好評の高齢者教室は、今年で三歳を通えました。今年も六月から毎月一、二回の教室を開きます。おじいさんおばあさんに、こんな楽しい催しがあることをぜひ知らせてあげてください。

いま、社会教育課では高齢者教室の学級生のみなさんの感想文や思い出などを集めて文集を作っています。ここに載せたものは昨年の教室に参加した感想文です。いずれも長文でしたが、一部割愛させていただきました。

講演に聞きいる　大篠公民館で

昭和も五十年になり、私たちの人生も残り少ない年齢となりました。今年は健康のゆるす限り少しでも社会のため、家庭のため、役にたちたいと張り切っております。

振り返れば、六月高齢者教室開設以来、学級生として近所の奥様方とともに月に一回、欠かすことなく出席いたしました。第一印象は指導者の方々が大変立派なこと。そして学級生も高齢者とも思われないほど皆様お元気なこと。また運営の点でも講演その他、あらゆる教材を集めて老人のために少しでも良いようにとの当局の方々のお心づかいの顕れが心にしみました。わずかな時間も利用して音楽を取り入れ、また体をほぐす運動、ゲームなど、高齢者も幼少に帰り、日頃の単調な生活を忘れて一日を送ることができる――何とすばらしいことだと思いました。

講師の先生を必ずその時々にお招きいただきました。ある時は、文学を通してユーモラスに楽しく生きる道。また立派な体験が語られ、たくましく老後を有意に送る道。園芸のコツ。造園の美。ゴム紐の人体に及ぼす悪影響。世界の状勢、特に東南アジア、日本も含む各国をめぐる複雑な状勢など、様ざまの勉強をいたしました。

四十九年度最後の集いは、映画にレクリエーションにと進みきめ細かな、いろいろな催しに笑ったり、歌ったり、汗を流したり、思い出を飾るにふさわしい教室でした。担当してくださった孫のような年代の高木正平さんは、よく老人の中にとけこんでくださって御指導くださったお心づくしを涙ぐましくお受けいたしました。

このようにして南国市が老人問題に取りくんでくださっていることに非常に誇りを覚えます。市長さん、教育委員会の方々、市の職員の方々、公民館長さん、その他お世話くださった方々に対して心からお礼申しあげます。

華やかな高度経済成長のかげりをうけ、今、世界をあげて激動の転換期を迎えております。人間性福祉、公害を置き忘れての高度成長でした。石油問題に端を発してたちまち不景気風が吹きはじめ、世の中は混沌としております。おくればせながら、ついに来るべきものが来たと覚悟しなければなりません。

県の中央に位置をでんと構え、田園都市として諸条件もそろって恵まれているわが南国市もこの風はにげることはできません。世界に眼を向けた時、ほんとに恐ろしくなります。明治・大正・昭和の三代を生き抜いた私たちは尊い幾多の体験や戦争の恐ろしさ、また敗戦の憂目を、何にも知らない若い孫たちに語り伝え、絶対に世界平和を叫び続ける使命があります。南国市発展のにない手である若者をはげまし、理解し、相談相手となって暮しの知恵をしぼり助けあってこの難局を共にのりきってゆきたいものです。

終りに、未加入の高齢者の方々にこの教室の良さを伝えて参加される様、おすすめいたしましょう。そして私たちは無理をせず、健康に注意して、今年は昨年より充実した学級にと、お互いに頑張りましょう。

西原初子（七〇歳）

楽しさと喜びの輪

高齢者教室の運営に参加して

四十九年五月十三日、十名の運営委員が出席して、初めての運営委員会が開かれた。

私は正直なところ、こんなことはできっこない、お役所式の計画案でとても実効はあがるまいと思った。

六月二十九日、私の日記を見てみると、「今日は中央高齢者教室の開講式の日である。市のあちこちから参集した教室生はおよそ百五十名。広い教室にみちあふれる盛況だった。旧知の友、未知の友、そこには六十、七十の年齢を重ねた力強い生命の躍動がみなぎって老壮の意気まさに天を衝くとは少し誇大な表現だろうか。」とある。

当日の初講義は高知大の藤岡正秋教授の「これからの老人はどうあるべきか」で先生独特のユーモアを交えた話術と内容の豊かさは教室生をすっかり魅了し深い感銘をあたえた。ああ、今日はよかったと充実した一日を喜びながら、でも私にはなおこの調子が長く続くだろうかとの危惧ものこっていた。

ところが七月十日、八月二十六日、九月二十七日と回を重ねるにつれて新らしい参加者が激増、さしもの大教室にいくら補助席をつくってもおっつかない文字通り立すいの余地のない日もあった。私の当初の危惧はいっぺんにふきとんだ。そしてこの成功のわけについて静かに考えてみた。

まずその第一に教室生が勉学に対し燃える意欲をもっていること。すなわち老人の老後の生きがいを高め老人の再開発のために生涯教育をうけたいとの欲求と願いがもたらす雰囲気をあげたい。そこには老人持ち前の孤独も老化もさらになく、ただ楽しさと喜びの輪がしっかりと結ばれたからである。

その二は、若き主任を中心とする社会教育課の皆さんのご指導のたまものである。とりわけ教室生から見れば係のようなヤング、高木さんの至れりつくせりのお世話がどんなにか教室を若返らしたことか。また、岡崎、野村両社会教育指導員の先生の気持ちよい応待、松木、鈴江お二人の如才ない運営ぶりが人間関係を大いにうるおいのあるものにしたことも高く評価したい。

第三は日程の組みかた、講師の選定とその内容の良さ、殊に講師の人柄が教室生の心に通ったことである。

このように三拍子も四拍子もそろったところに教室の見事な雰囲気が培われたのである。すなわち教室を構成する生徒相互、運営の人びと、さらには講師の先生との人間関係の結びつきがこの美しい成果をおさめた基本であったと考えられる。

人間関係といえば、この期間中何人かの教室生と家庭とのうるわしい情景に接することもできた。歩け歩けは老人の健康保持のためぜひそうしたいものだが、期間中必ずといってよいほど車で送り迎えした嫁さんがある。たぶん遠方の人か歩行困難な人かと思われるが心温る思いであった。また二月十四日は、たまたま大雨になったが公民館の有線電話でこんな対話もきかされた。『おじいちゃん車で迎えに行くきに待ちよりなさいよ』と孫嫁らしい声。『お前や、ハウスが忙しいきにかまんかまん。どうでもして帰るきに』『一走りよ。気をつかいなさんなや。〇〇のおばあさんも一緒に乗せて帰るきに待ちよるように言うてちょうだい』こんな人間関係が培われるところに家庭平和の源泉があるのではあるまいかと思った。閉講式の閉式のことばの中で指導員の野村先生は「今日はおじいちゃん、おばあちゃんの卒業式だと、お家では生造りならずとも一本つけて待ってくださっているでしょう。」とおっしゃったが、皆勤賞を孫に見せながら自慢するおじいちゃんに、まあ一ぱいとすすめる息子、教室のあるたびに小学生のその昔、母から卵焼きの弁当をつくってもらった有難さを今は男と姑に返そうと心を弁当にこめた嫁さんの笑顔も想像される。

こうした人間関係と運営のよさ、美しい雰囲気が続くかぎり、教室は次年度もまたその次も、さらにさらに充実発展して美しい花を咲かせるであろうとかたく信じ、企画のお手伝いを少しさせていただいたことに心からの喜びと感謝をもって筆をおく。

北岡博（長岡・七六歳）

〝みんなで楽しく〟レクレーション　前浜高齢者教室

中央高齢者教室

開講の日・6月16日（月）
午前10.00～午後3.00
講　演・「人間の尊さ」
講師＝安中正哉　高知女子大学長
「趣味の園芸」
講師＝武井近三郎　高知県緑化公社

ごいっょしょにどうぞ
おじいさんおばあさん、一緒に楽しく高齢者教室で勉強しませんか。ご希望の方は市役所社会教育課までご連絡ください。
TEL③－2111　内線314